

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	道徳
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが学習の見通しをもてるようにする。</li> <li>単元のねらいや子どもの実態に合った学習活動を取り入れる。</li> <li>自分の考えを友達と交流する学び合いの活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で使う用語について習熟させる。</li> <li>使用する資料を精選し、読み取る活動を取り入れる。</li> <li>「なぜ～」の発問を取り入れ、児童に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を読み、求めることと分かったことに線を引く。</li> <li>今まで学習したどんな考えや方法が使えるか、見通しをもたせる。</li> <li>自分の考えを言葉、数、式、図、表、グラフなどを使って表現させる。</li> <li>自分の考えや友達のことを、ペア、グループ、全体で話し合わせる。</li> <li>「ちょこっと算数」で既習事項の定着を図る。</li> <li>「基準量÷比較量＝割合」の関係を捉えさせる場合などを指導する際は、具体的な場面を設定し、確実に理解させる。</li> <li>学習内容により、児童の様々な解法や考えを共有できるように、教材や板書等の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験に関わる学習については学習過程を「事象→実験→予想→実験→観察→結果→考察→結論→まとめ」とし、一貫して学習指導を行う。</li> <li>実験の予想、考察などについてペアやグループなどで話し合わせる。</li> <li>授業で使う用語について習熟させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜかな」、「ふしぎだな」、「もっとしりたい」、「はっけん!」、「やってみよう」等の子どものつぶやきを取り上げる。</li> <li>感じたことや気付いたことをペア、グループ、全体で話し合わせる。</li> <li>子どもが、日頃見聞きしている事柄を学習教材にすることで気付きや疑問を引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習を取り入れ、お互いのよい所を見付けたり意見交換をしたりしながら、楽しく音楽表現ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい用具や素材に出会うときには、十分に試したり慣れたりする時間を確保するようにする。</li> <li>班の中で作品を見合ったりアドバイスしたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習に関わる学習については、ペアやグループで、協力したりアドバイスができたりするように、普段から話し合う場を設定し関わることができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがめあてをもって運動ができるようにする。</li> <li>説明や準備の時間をできるだけ短くし、運動量を増やす。</li> <li>ペアやグループで互いに動きを見合い、褒め合ったり、アドバイスをしたりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌やクイズ、チャレンツやゲームなどの学習活動をバランスよく配列する。</li> <li>子どもの活動や、子ども同士で発した言葉を積極的に称賛し、全体に広める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分事として考えられるような身近なことの導入を行う。</li> <li>教科書を使って中心発問を考え、内容項目に沿った授業展開を行う。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを振り返り、本時で学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの中で押さえるべき語彙等を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの中で押さえるべき語彙や定義、公式等を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの中で押さえるべき語彙等を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを振り返り、次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを振り返り、本時で学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを振り返り、次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを振り返り、本時で学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに沿った振り返りを記録させ、次の学習のめあてに生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を振り返り、学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを振り返り、本時で学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめる。</li> </ul>
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語辞典、漢字辞典を、3・4年の児童数分、教室に用意する。</li> <li>毎時間の授業の流れを掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が作成した新聞やパンフレット等は廊下に掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、九九の表などを手元に置くことができるよう準備しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察カード等は教室後ろに掲示する。</li> <li>学級園を有効に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察カード等は教室後ろに掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな音符・休符・記号が分かるようにカードを掲示する。</li> <li>楽器は、題材に応じて使いやすいように配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な材料を使いやすいよう配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の名前や使い方、また作り方が分かるように、ポスターや試作品を掲示する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現できるように、ネームマグネットを用意する。</li> </ul>
補充学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じて、基礎的な知識の確認ができる問題を用意し、「さんさん国語」の時間に活用する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>評価テストや、力だめしの問題を用意する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間等で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間等で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間等で、個に応じた支援を行う。</li> </ul>			
東京ベーシックドリルの活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じてプリントを選び、家庭学習で活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後ステップアップ教室や「さんさん算数」で、個々の課題に応じた練習プリントを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年に応じてプリントを選び、家庭学習で活用する。</li> </ul>							
家庭学習(毎日30分から1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読</li> <li>漢字</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル学習</li> </ul>								
読書の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書資料を活用した授業を年1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に関連する図書資料を教室に置いておく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を作る際に参考になる資料を用意する。</li> </ul>				

※ICTの活用…ICTを活用した授業を推進し、各教科等においてICTの有効活用を図る。